

授業科目名	地域イノベーション実習	担当教員	瓶内 栄作 小畑 克典 富樫 佳織 小島 寛大 夏 世明
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	実習		
開講年次	3年 第2クォーター		
講義内容	<p>Schumpeter. J. A の定義によると、イノベーションとは経済活動の中で生産手段や資源、労働力などをそれまでとは異なる仕方で新結合することを指す。そのなかでも日本企業におけるイノベーションは経営革新と称される。この実習では、地域にある中小企業のイノベーションの実践について、自ら体験しながら学習する。</p> <p>イノベーションを実現した企業に出向き、経営者や社員の皆さんの体験談を聞き、企業の組織風土や、イノベーションに至る課題の発掘方法、イノベーションが創出できた理由やその成立プロセスなどについて、自らも企業の中で行動することによって学ぶ。</p> <p>指示に基づきながらも、自らができることを考え、主体的に行動することによって、最終的には取組内容について、独自の考察を加えたレポートを作成し、実習先に対してプレゼンテーションを実施する。</p>		
到達目標	<p>課題をイノベーションに転換するプロセスについて、理解することができる。</p> <p>実習先におけるイノベーションの取組や現実的課題について、理解することができる。</p> <p>必要あれば事業に関する調査・分析を実施し、改善提案等の企画立案ができる。</p> <p>実習先経営者や社員、その関与先との円滑なコミュニケーションを実践できる。</p> <p>自らの体験に基づき、独自の考察を加えたレポートを作成できる。</p> <p>レポートについて、実習先経営者や社員を交えプレゼンテーションを実施できる。</p>		
授業計画	<p>本実習は5日間×2週を現地での実習期間としている。限られた期間での実習であるため、事前準備をして、効率的な行動が求められる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内でのオリエンテーション</li> <li>2. 現地訪問 1日目 現地でのブリーフィング、見学</li> <li>3. 現地訪問 2日目 イノベーションの背景となった課題についての学習</li> <li>4. 現地訪問 3日目 イノベーションの実践現場視察</li> <li>5. 現地訪問 4日目 イノベーションの取組についての実践</li> <li>6. 現地訪問 5日目 1～4日目の振り返り</li> <li>7. 現地訪問 6日目 課題をイノベーションに転換するプロセスについての</li> </ol>		

	<p>学習</p> <p>8. 現地訪問 7 日目 自らの考察について経営者や社員との意見交換</p> <p>9. 現地訪問 8 日目 レポート資料作成(基本構想)</p> <p>10. 現地訪問 9 日目 レポート資料作成(資料完成)</p> <p>11. 現地訪問 10 日目 プレゼンテーション資料作成</p> <p>12. 学内での学習成果共有・発表 (プレゼンテーション等)</p>
事前・事後 学習	特になし
テキスト	特になし
参考文献	<p>『イシューからはじめよ』、安宅和人、英治出版、2010 年</p> <p>『問題解決』、高田 貴久・岩澤 智之、英治出版、2014 年</p> <p>『ロジカル・プレゼンテーション』、高田貴久、英治出版、2004 年</p>
成績評価 の 基 準	<p>実習の態度(30%)、報告書ならびにプレゼンテーション資料(50%)、プレゼンテーション(20%)により評価する。</p>
履修上の注意 履修要件	<p>地域イノベーション論を履修済みであることが望ましい。</p> <p>実習先の皆様は日常業務に大変忙しい中、皆さんの学びの場を提供するためにご協力いただいている。礼節をもって接し、失礼がないように心がけること。</p>
実践的教育	<p>学外の臨地実務実習先の実習指導者から、実践的な指導を受けながら実習をすることから、実践的教育に該当する。</p>
備考欄	<p>実習先の都合により内容は変更になる場合がある。また参加希望者が多い場合は事前に抽選を行う。</p>